

動物動画はポジティブ感情を引き起こすのか —動画内容と音の有無による影響—

浅野亜衣莉・一戸萌佳・葛巻彩

着想の経緯



SNSにおいて
ペットに関する
投稿が増加

視聴後に穏やか
で優しい気持ち
になった

動物動画とポジティブ感情
の関係性について研究した
い！

先行研究

●動物動画を見ることによって得られるアニマルセラピーの
効果検証実験(新山・佐野2021)

- 動物動画は「混乱」「抑鬱」「疲労」「怒り・敵意」を鎮める効果がある！
- しかし、ポジティブ感情項目である「活気」の効果が認められなかった。

原因は？

- ・使用した動画が無音であった
- ・使用した動画が「人と動物が触れ合うもの」と「動物のみ」を組み合わせた内容だった

目的

動物動画を視聴することがポジティブ感情に与える要因として、**音の有無(音あり、音なし)**と**動画内容(ふれあい、観察、日常)**の2つを取り上げ検討すること

仮説① 音の有無によって効果が異なる
音あり条件>音なし条件

仮説② 音の有無によって動画内容の効果が異なる
音あり：ふれあい動画>観察動画>日常動画
音なし：ふれあい動画・観察動画>日常動画

方法

1. 対象者：本学の学生61名

2. 実験条件：

動画は
各6分間

犬・猫が「遊んでいる」「食べている」「撫でている(寝ている)」

動画内容(ふれあい動画、観察動画、日常動画)

× 音の有無 計6条件

ピアノ演奏、洗い物、服をたたむ、バスの車窓からの風景、歩道橋の上からの風景、パソコンのタイピング

3. 質問紙の構成

- ① 一時的気分尺度(TMS) 新山・佐野(2021)で使用された尺度
- ② 多面的感情状態尺度・短縮版(MMS)の「活動的快」「非活動的快」

ポジティブ感情を測定するため

4. 脈拍の計測

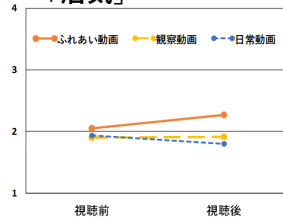
活気がある生理状態の確認のため
実験開始から終了まで継続的に計測



結果

●TMSに関する結果 →3要因混合計画の分散分析

・「活気」



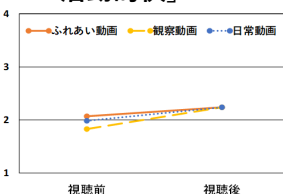
●測定時期と内容の交互作用が有意($F(2,55)=3.21, p<.05$)

→単純主効果の検定の結果、**ふれあい動画**で動画視聴後、尺度得点の平均が高くなった($F(1,55)=4.88, p<.05$)。

・「疲労」「混乱」「抑鬱」「緊張」「怒り」
動画視聴前より**視聴後の方が**尺度得点の平均が低かった($F(1,55)=39.48, 24.60, 23.90, 49.89, 13.37, p<.01$)。

●MMSに関する結果 →3要因混合計画の分散分析

・「活動的快」



●測定時期と内容の交互作用が有意($F(2,55)=3.85, p<.05$)

→単純主効果検定の結果、**観察動画**で動画視聴後、尺度得点の平均が高くなった($F(1,55)=6.90, p<.05$)。

・「非活動的快」
動画視聴前よりも**視聴後の方が**尺度得点の平均が高かった($F(1,55)=51.51, p<.01$)。

●脈拍に関する結果 →3要因混合計画の分散分析

音あり条件、音なし条件に関わらず、すべての条件で、**安静期よりも動画視聴後の脈拍が上がった。**



考察

仮説①、②は支持されず、音の効果は得られなかった

➡「ふれあい動画」：飼い主の一方的な語りかけになってしまったこと、「観察動画」：動画内容の中の「寝ている」行動がほとんどであったことが原因ではないか

➡「ふれあい動画」は活気を高めた

➡「ふれあい動画」は人と動物が楽しそうに触れ合っている様子や人から動物に対する明るい声掛けが多く、ポジティブ感情項目である「活気」を高める効果があったのではないかと推察。動物動画の内容を分けることで、ポジティブ感情を高める効果が得られた。